

商業科（簿記）学習指導案

指導者

- 1 履 修 単 位 数 4単位
- 2 実 施 日 時 令和6年11月 日（ ）第 時限
- 3 学 級 年生（ 名）
- 4 使 用 教 科 書 簿記（東京法令出版）
（副教材等） 完全段階式標準簿記問題集3級（東京法令出版）
- 5 単 元 名 第Ⅲ編 決算 第1章 決算整理（その1）
- 6 単元設定の理由 (1) 教材観 イラストや図で丁寧に解説されており、生徒が理解しやすい内容となっている。また色分けもされており、視覚的にも理解しやすく学習意欲が高まる内容となっている。
- (2) 生徒観 簿記の学習も終盤に差し掛かり、学習内容に対する理解度には個人差が生じている。一方で授業に対しては真剣に取り組む授業終わりに質問に来るなど意欲は高い。また生徒同士で教え合いをするなどそれぞれが学習に対して理解を深めようとする姿勢が見える。
- (3) 指導観 パワーポイントやエクセルを活用し、精算表の作成方法について視覚的にも内容の理解がしやすいように指導する。また生徒との対話を通して生徒達の理解が深められるように指導する。
- 7 単 元 の 目 標 (1) 決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- (2) 決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応する。
- (3) 決算について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組む。

8 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身につけている。	決算の方法の妥当性と実務における課題を見だし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。	決算について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

9 指導と評価の計画

第1次	決算整理の意味、商品に関する決算整理	・・・	2時間
第2次	貸し倒れ	・・・	1時間
第3次	固定資産の減価償却費の計算と記帳	・・・	1時間
第4次	現金過不足の整理、引出金の整理、棚卸表	・・・	2時間
第5次	8けた精算表の作成	・・・	2時間
			2／2（本時）

	【ねらい】・学習活動	評価の観点			評価規準・【評価方法】
		知	思	態	
第1次	決算整理の意味と商品に関する決算整理について基本的な内容とその記帳方法を理解させ、基礎的な技術を習得させる。	○			決算整理の意味と商品に関する決算整理についての記帳方法について基本的な内容とその記帳法を理解し、商品に関する決算整理仕訳ができる。（観察・問題集）
第2次	貸し倒れの意味と差額補充法による貸倒引当金の計上方法を理解させ、正しい計上方法と記帳方法を習得させる。	○	○		差額補充法による貸倒引当金の計上方法と記帳方法について正しく理解し、計算と記帳が正しくできる。（観察・問題集）
第3次	固定資産の減価償却費の計算と記帳に関する内容とその計算方法、記帳方法を理解させ、基礎的な技術を習得させる。	○	○		減価償却費の計算と記帳方法に関する基本的な内容とその記帳方法を理解している。（観察・問題集）

第4次	現金過不足と引出金の整理について理解し、棚卸表にもとづいた決算整理仕訳と決算整理記入欄への記入を習得させる。	○	○	現金過不足と引出金の整理について正しく理解し、決算整理仕訳と決算整理記入欄への記帳ができる。（観察・問題集）
第5次	8けた精算表の作成方法について理解し、決算整理仕訳にもとづいて、適切に転記を行い精算表を作成する技術を習得させる。	○	○	8けた精算表の作成方法を身に付け、精算表の作成方法や作成する意味を自らの言葉で表現できる。（観察・ワークシート）

1 0 本時の指導目標 (1) 8けた精算表の作成方法を理解する。

1 1 本時の展開

時間 (分)	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
導入 (5分)	・ 本時の目標を聞く。	・ 本時の目標を示す。 ・ 目標を示す中で前時の内容にもふれる。		
展開 (40分)	・ 決算整理仕訳をもとに、整理記入欄への記入を行う。 ・ 残高試算表欄と決算整理記入欄をもとに貸借対照表と損益計算書の各勘定欄へ金額の記入を行う。 ・ 貸借対照表および損益計算書の貸借差額を計算し当期純損益を出す。 ・ 整理記入欄・貸借対照表欄・損益計算書欄それぞれの貸借金額を合計して締め切る。	・ 電子黒板に整理記入欄の金額を表示し、ワークシートに記入させる。 ・ 決算整理記入欄の貸借金額が一致することを示す。 ・ 電子黒板で記入内容をもとに、加算・減算の方法を示す。 ・ 貸借対照表および損益計算書の当期純損益が一致することを確認させる。 ・ それぞれの貸借金額が一致することを確認させる。	・ 整理記入欄へ正しく記入できる。【知・技】 ・ 残高試算表欄と決算整理記入欄から貸借対照表、損益計算書の各勘定欄へ正しく金額を記入できる。【思】 ・ 当期純損益を正確に出すことができる。【思】	・ 行動観察 ・ ワークシート ・ ワークシート
まとめ (5分)	・ 本時のまとめを行う。	・ 精算表の作成方法と作成する意味について確認させる。		